



特集

「明治維新150周年と鹿児島の特産品」

パリ万博に見る

薩摩藩のPR戦術

特産口口

PR tactics and specialty products of the Satsuma clan to see in Paris Expo

平成30年に「明治維新150周年」の節目の年を迎えます。

【江戸時代の暮らしと特産品】

維新の頃の人々の暮らしや、歴史、地域に根ざした特產品等の変遷を学び、本県特產品の進むべき方向性をあらためて考える契機とし、今後の特產品振興や商品開発に活かすべく、当協会では本年度より3年間「明治維新150周年事業」に取組んでまいります。

また、当誌においても「明治維新150周年と鹿児島の特產品」を年間テーマにし、明治維新に関連した特集記事を掲載していきます。

第1回目となる今号は、一般、県が発行した「明治維新と郷土の人々」の編纂にあたられた、県知事公室政策調整課の吉満庄司専門員を講師にお招きして、まずは会員の皆様への啓発の役割を担う協会職員を対象に研修会を開催しましたので、その内容を報告します。

そもそも、薩摩藩領の多くはシラス土壤で米の生産に適した土地は少ないこともあり、庶民は年に数回しか米を食べることができないほど貧しかつたが、さつまいもをはじめとする米以外の食べ物のおかげで百姓も最低限飢えることなく、命がけの抵抗である一揆も皆無であった。

また、琉球の影響もあり、他の地域には見られない豊かな食文化や、中国や東南アジアの様々な食べ物が伝わり、庶民も「コーヤ、ヘチマをはじめ、

【パリ万国博覧会（1867年）への参加】

1867年には、国の産業力や軍事力を国際的にPRする場であるパリ万国博覧会に初めて公式に幕府が出展したが、薩摩藩の新納久脩、五代友厚等にフランス・ベルギー両國から爵位を認められていたモンブラン伯爵からパリ万博への参加の打診があり、薩摩藩は幕府とは別ルートで独自の参加を決めた。パリ万国博覧会はこれまでの産業博を

脱し、文化的祝祭として演出したが、多くの人々の注目は武器や機械に集まり、中でもプロシアのクルップ社製の巨砲は見物人を驚かせた。

【目的は市場性調査】

崎のグラバーやモンブラン伯爵のアドバイスを受けながら、歐州の人々に受入られるもの、喜ばれるものをリサーチし、合計400箱を出品した。その目的は、歐州人の趣向や市場性などの情報収集であり、万博終了後は出品物を販売するとともに、その後は、歐州人好みの豪華な装飾を施した薩摩焼などを輸出して外貨

薩摩藩は、パリ万国博覧会に岩下方平ほか11名の使節団を派遣し、泡盛や白・黒砂糖などの琉球産品や、漆器、竹細工、薩摩焼など薩摩の産物を出品した。その出品物は長

脱し、文化的祝祭として演出

【薩摩藩のPR戦略】

幕府の使節団より2ヶ月
以上も早くパリに到着した

な打合せを行い、博覧会総裁宛に薩摩の地位をアピールする書面を出している。岩下が万博の準備状況などを本国の小松帶刀に送った書簡には「琉球国王陛下の外交使節団」の印字が英語で印刷されている。この特注便箋は、モンブランの発案・戦略で、相当にパリ万博における薩摩藩出品リスト

数印刷し使用されたと考えられる。他にも、幕府が出品した武者人形や、芸者がお酒などを提供して人気を博した「日本茶屋」が新聞で紹介された際には、いずれも丸に十字の大きなエンブレムが置かれているが、これもモンブランによるマスコミ戦略であつた。



② 薩摩琉球國勳章(尚古集成館藏)

んと主権を持つた独立国であることを目に見える形で立証した。幕府使節団も慌てて動画制作に取りかかるが、ついに万博期間中には完成しなかつた。

【薩摩藩のPR戦略から学ぶ】

薩摩藩に於てのパリ万博は、単に特産品をPRするだけではなく、薩摩が幕府と同等の主権を持つた国家であることを諸外国にアピールした国際イベントであった。

また、薩摩藩は、モンブランの発案により日本で最初の勲章「薩摩琉球国勲章」を制作し、会期中、ナポレオン3世をはじめフランスの高官や各国の代表らに贈り、薩摩藩は幕府から独立した国家

であるかのような印象を与えた。そもそも勲章を制定して功績のあるものに贈るという行為は、国家であつて初めて可能となるものであり、薩摩藩が日本連邦の中できち

現地で「バスの情報収集や信頼できるパートナー（モンブラン伯爵）の確保、薩摩琉球国勲章のようなインパクトのある商品開発、そして、マスコミを活用したPR戦術など薩

薩摩藩は、広範囲に情報網を持ち、いち早くその情報をキヤツチし、処理、政策立案、準備・実施など幕府に先んじて情報収集を行う優れた分析力・行動力を持っていた。

摩藩のような気概を持つて「鹿児島」をPPする事が大切である。

鹿兒島県知事公室政策調整課 専門員

吉滿 庄司氏

平成3年鹿児島大学大学院人文科学研究科修了後、県立高校教諭に。県歴史資料センター黎明館学芸専門員、県総合教育センター研究主事を経て、平成26年より同職。幕末維新期の薩摩藩について、対外関係史を中心に研究。ヨーロッパ各国に残る関係資料の調査も踏まえ、新たな薩摩藩像に迫る。

